

2 地域公共交通アンケート調査の実施

2-1 町民アンケート調査

中井町民を対象に日常的な交通行動、公共交通の利用状況や改善ニーズ、新しい交通システムの利用意向などを把握することを目的にアンケート調査を行った。

■町民アンケート調査概要

調査方法	調査対象者：住民基本台帳から無作為抽出 15歳以上の町民 1,000人対象 調査方法：郵送配布、郵送回収 調査期間：平成23年9月中旬～9月下旬
回収状況	配布数：1,000票、回収数：539票（回収率：53.9%） ※中村上地区69票、中村南地区59票、中村下地区104票、境地区44票、井ノ口上地区77票、井ノ口中地区118票、井ノ口下地区：66票、地区名無回答2票
調査項目	<input type="checkbox"/> 回答者の属性（住まいの地区、性別、年齢、職業、運転免許証の有無） <input type="checkbox"/> 生活環境（所有または専用で使える乗り物、世帯の自動車保有台数、家族で自動車を運転できる人の有無） <input type="checkbox"/> 外出行動（主な外出目的、外出頻度、外出先・所在地、交通手段、鉄道利用、外出・帰宅時間、交通行動の不便さの程度） <input type="checkbox"/> 路線バスの利用状況及び満足度（自宅から最寄のバス停までの距離、利用しやすくするための施策、利用頻度、利用目的、バスを利用する理由、運行サービスに対する満足度、今よりも便利になった場合の利用意向） <input type="checkbox"/> 新しい交通システムの利用意向（デマンド型交通を導入する場合の運行エリアと利用意向、行きたい場所と利用目的） <input type="checkbox"/> 自由意見

■地区区分図

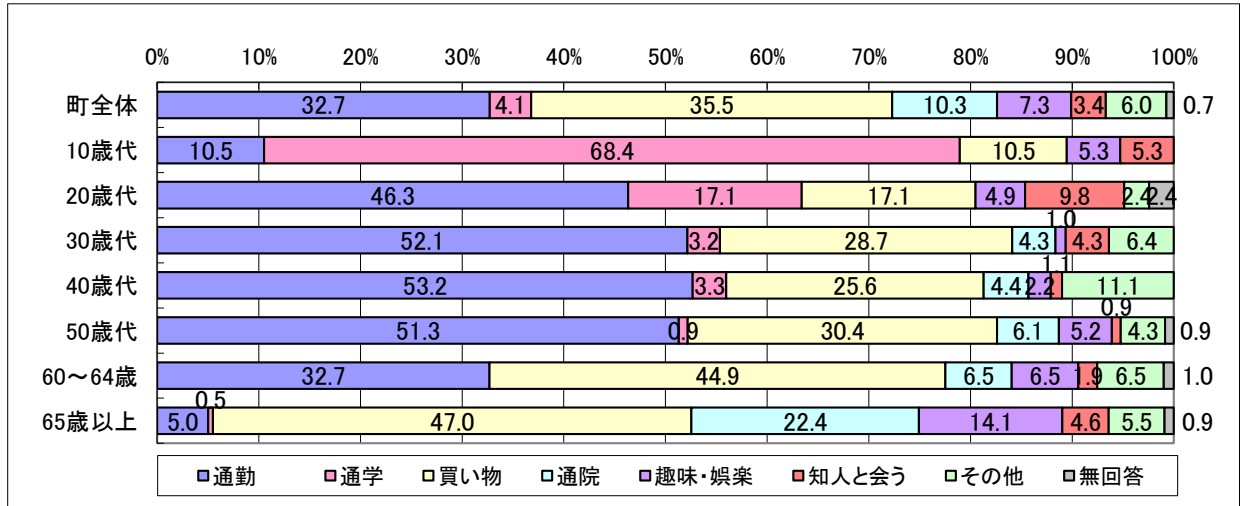


(1) 外出行動

① 主な外出目的

外出目的は、「買い物」が 35.5%と最も多く、次いで「通勤」が 32.7%、「通院」が 10.3%の順となっている。外出目的は、年齢別で見ると 10 歳代は「通学」、20～50 歳代は「通勤」、60 歳以上は「買い物」が多くなっている。

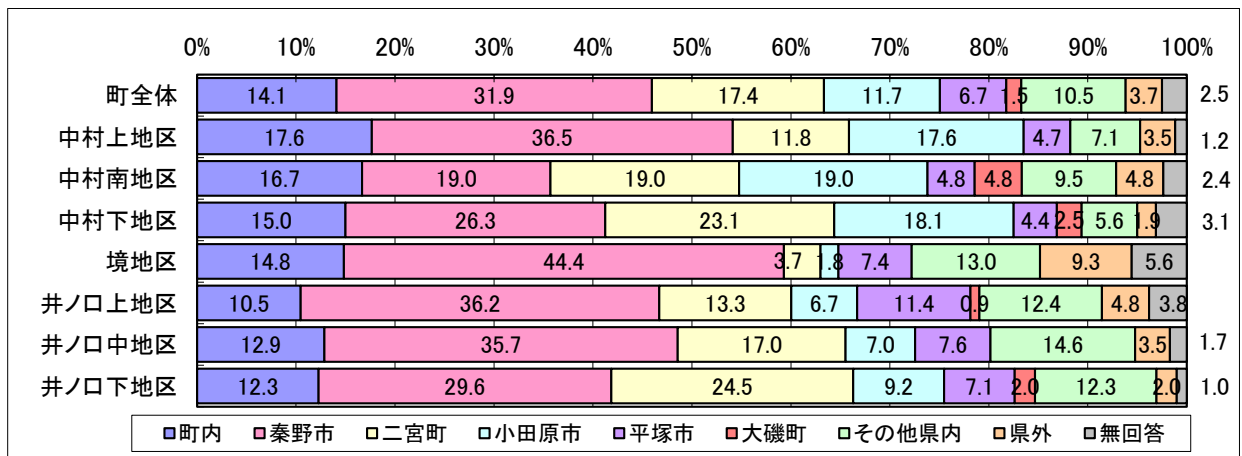
■ 年齢×外出目的



② 主な外出先と施設の所在地

町内には、スーパーや病院が少ないため、主な外出先の施設所在地については、「秦野市」が 31.9%と最も多く、次いで「二宮町」17.4%、「町内」14.1%となっている。地区別にみると、中村地区では「小田原市」、井ノ口地区では「平塚市」への外出が他の地区に比べ多くなっている。

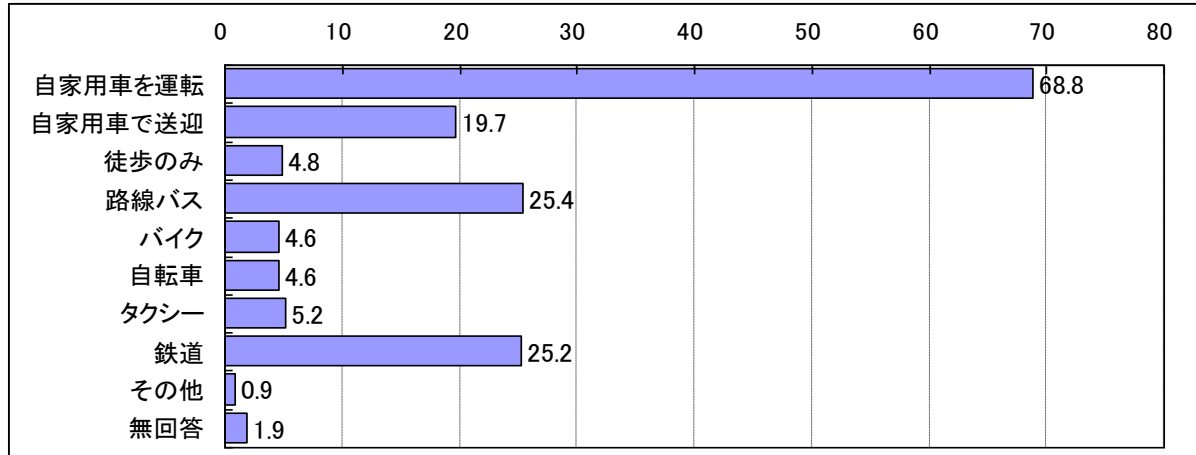
■ 地区×外出先の施設所在地



③利用交通手段

外出時の利用交通手段は、「自家用車を運転」が68.8%と最も多く、次いで「路線バス」25.4%、「鉄道」25.2%となっている。地区別にみると、井ノ口中地区と井ノ口下地区で「路線バス」の利用が多い。年齢別では10歳代及び65歳以上の「路線バス」の割合が高くなっている。

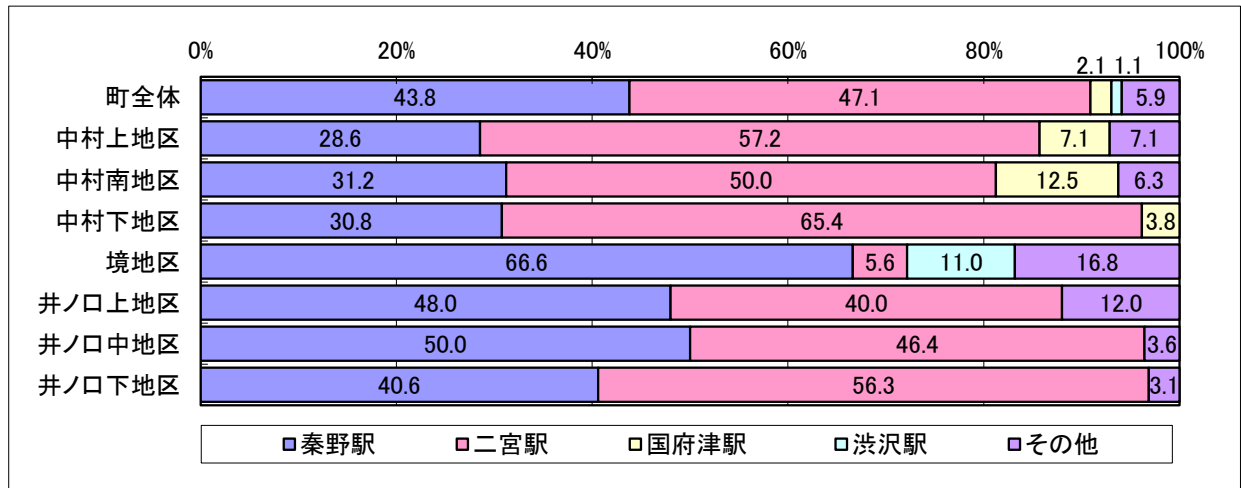
■外出する際の利用交通手段



④鉄道利用

鉄道の利用駅については、「二宮駅」が47.1%と最も多く、次いで「秦野駅」43.8%となっている。境地区においては秦野市に隣接していることから秦野駅に次いで、「渋沢駅」が11.0%となっている。小田原市に隣接する中村地区では「国府津駅」の利用もみられる。

■地区×鉄道利用駅

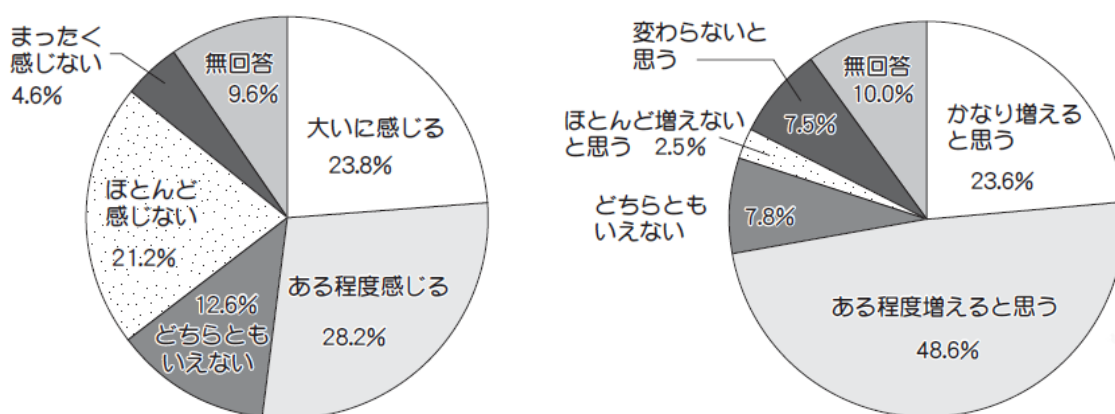


⑤ 日常の交通行動の不便さ

日常の交通行動における不便さは、全体の 52.0%が「大いに感じる (23.8%)」、「ある程度感じる (28.2%)」と回答しており、不便と感じている方が半数以上となっている。

日常の交通行動の不便さで「大いに感じる」「ある程度感じる」と回答した方の不便を感じる場所は、「駅」が 78.2%と最も多く、不便さが解消された場合の外出機会の変化については、該当者の 72.2%が「かなり増えると思う (23.6%)」、「ある程度増えると思う (48.6%)」と回答しており、不便が解消された際の外出機会の増加が見込まれる。

■ 日常の交通行動における不便さの程度 ■ 地区×不便さが解消された場合の外出機会の変化
(不便さで「①大いに感じる」「②ある程度感じる」と回答した方のみ)

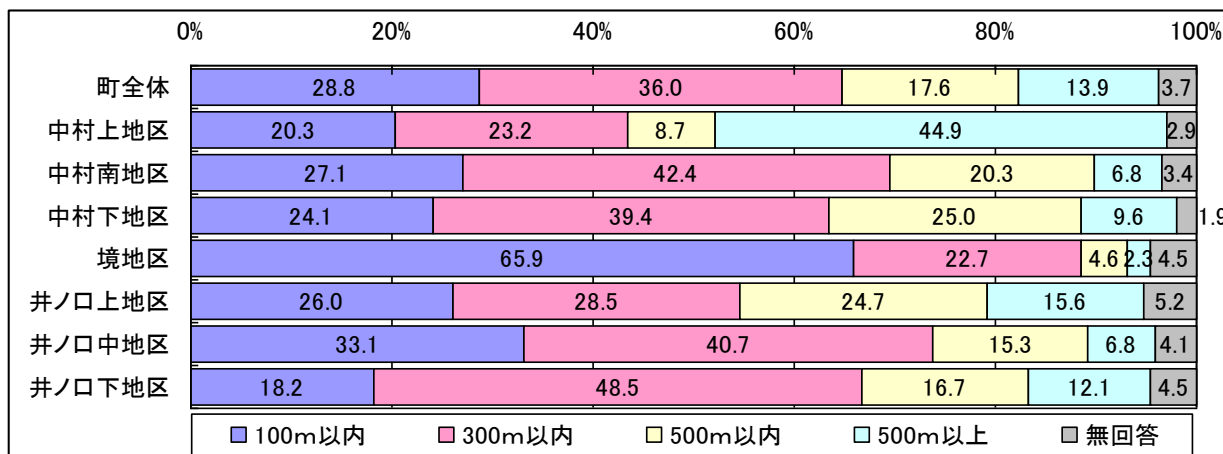


(2) 路線バスの利用状況及び満足度

① 自宅から最寄のバス停までの距離

自宅から最寄のバス停までの距離は、「300m以内」が 36.0%と最も多く、次いで「100m以内」が 28.8%となっている。地区別にみると、公共交通空白地域が広く存在する中村上地区では、「500m以上」の割合が 44.9%と多く、井ノ口上地区でも「500m以内 (24.7%)」、「500m以上 (15.6%)」が多くなっている。

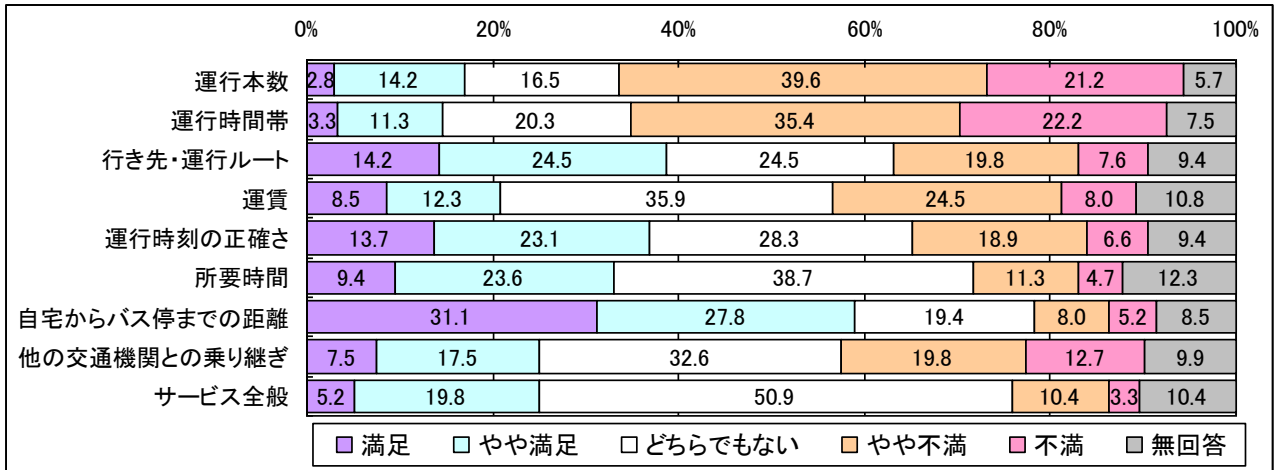
■ 地区×自宅から最寄のバス停までの距離



②路線バスの運行サービスに対する満足度

路線バスの運行サービスに対する満足度は、運行本数及び運行時間帯で「不満」「やや不満」と感じている方がそれぞれ60.8%、57.6%と「満足」「やや満足」よりも多い。

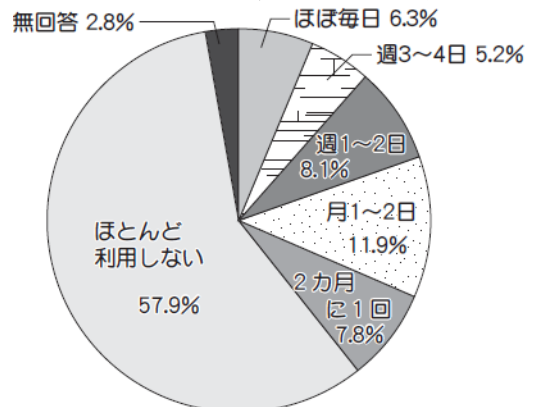
■路線バスの運行サービスに対する満足度（町全体、n=212）



③路線バスの利用頻度

路線バスの利用頻度は、「ほとんど利用しない」が57.9%と最も多くなっている。

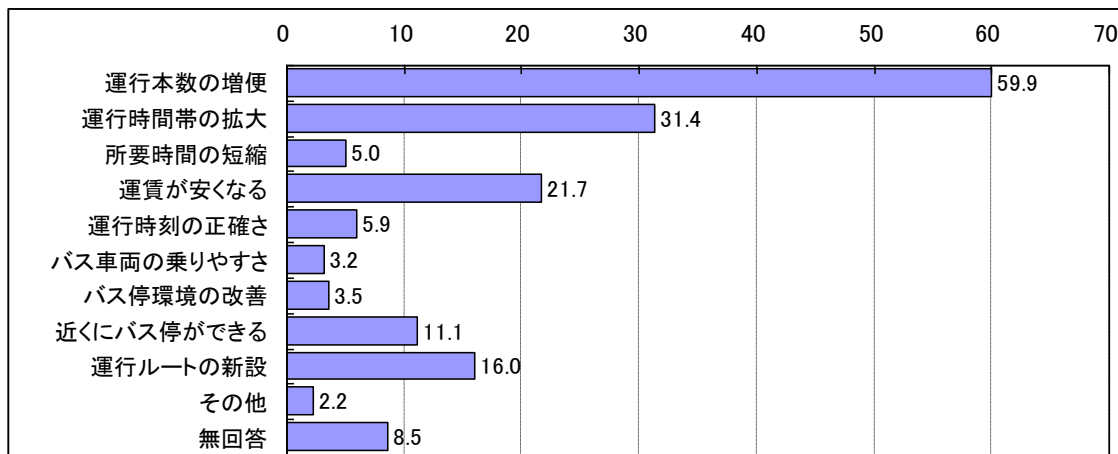
■路線バスの利用頻度（町全体、n=212）



④町内の路線バスを利用しやすくするために必要な施策

路線バスが利用しやすくなるために必要な施策としては、「運行本数の増便」が59.9%と最も多く、次いで「運行時間帯の拡大」31.4%、「運賃が安くなる」21.7%となっている。

■路線バスが利用しやすくなるために必要な施策（町全体、n=212）

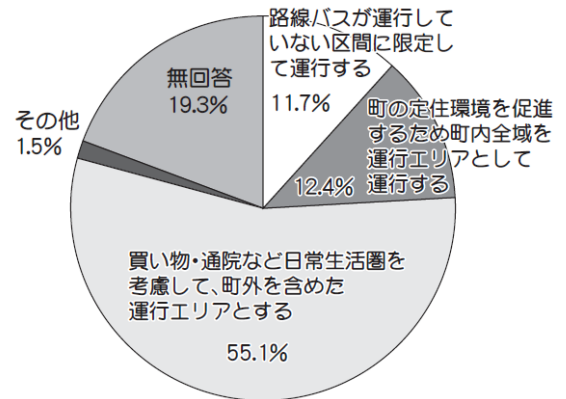


(3) 新しい交通システム（デマンド型交通）の利用意向

①デマンド型交通を導入する場合の運行エリア

デマンド型交通を導入する場合の運行エリアとしては、「買い物・通院など日常生活圏を考慮して、町外を含めた運行エリアとする」が全地区で過半数を占めている。

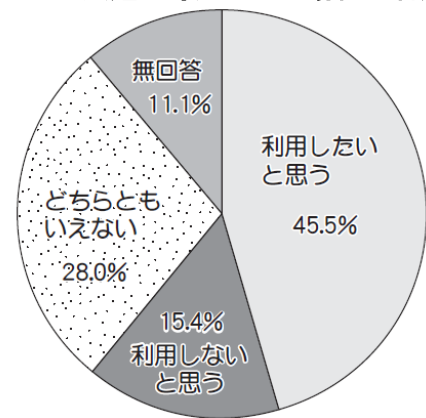
■デマンド型交通を導入する場合の運行エリア



②デマンド型交通が導入された場合の利用意向

デマンド型交通システムが導入された場合の利用意向は、「利用したいと思う」が45.5%と最も多く、特に公共交通空白地域が点在する中村上地区は56.5%と半数以上の割合を占めている。

■デマンド型交通が導入された場合の利用意向

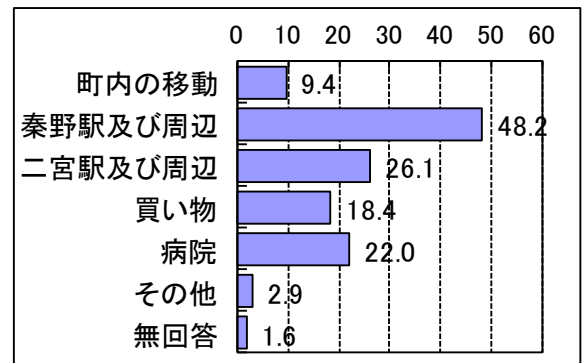


年齢別にみると、10歳代や65歳代以上のいわゆる交通弱者と呼ばれる世代を中心に幅広い世代からデマンド型交通の利用意向がみられる。

③デマンド型交通を利用して行きたい場所

デマンド型交通を利用して行きたい場所としては、「秦野駅及び周辺（48.2%）」、「二宮駅及び周辺（26.1%）」、「病院（22.0%）」、「買い物（18.4%）」の順で、町内の移動よりも広域利用へのニーズが高い。

■デマンド型交通を利用して行きたい場所



20代 女性（中村南）

二宮駅～秦野駅の直通便があると便利。直通便が難しいのであれば、乗り継ぎを良くしてほしい。また、最終バスの時間が早すぎるため、帰りの時間帯での利用ができない。もう少し遅い時間帯のバスを増便してほしい。

30代 女性（中村上）

子どもの通学に送迎が必要のため、通勤時間にも影響が出ます。せめて子どもの帰宅時間だけでもスクールバスのようなものがあればと思います。

40代 女性（境）

バス路線の所々に無料の駐車場を設置して、町民に無料バスを発行して駐車できるようにしてください。バス停まで自由に行けるようになれば、もっと利用したいと思います。

60代 女性（中村上）

今は車で出かけたり、家族に送ってもらったりしています。いずれ歳をとって運転ができなくなったとき、今のままのバスの運行状態では外出もままならなくなり不安です。安心・便利に利用できるシステムがあればと思います。

町民アンケート
からの自由意見

2-2 企業アンケート調査

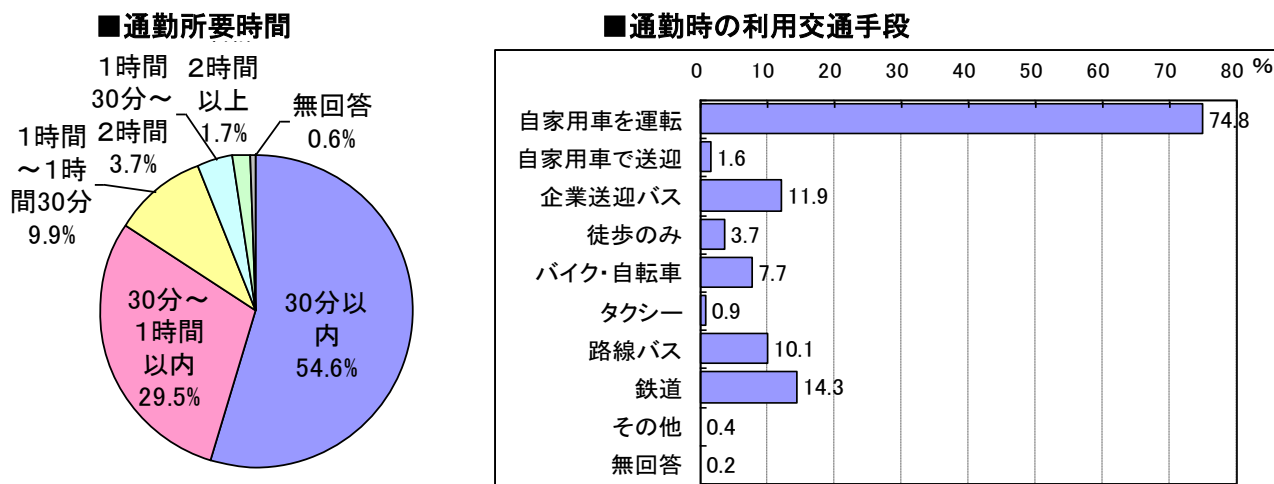
町内企業を対象に、就業者の動向や企業の対応状況を把握することを目的に企業アンケート調査を行った。

■通勤者アンケート調査概要

調査期間	平成23年9月中旬～9月下旬
調査方法	総務課など窓口へ直接依頼し郵送配布、郵送回収
調査対象者及び調査票数	町内の企業12社従業員（1社あたり10～100票程度）
調査項目	○属性（性別、年齢、居住地） ○通勤の状況（通勤所要時間、通勤時の利用交通手段とその理由、路線バスの運行サービスに対する満足度） ○公共交通の利用（自動車やバイク等から公共交通へ変更する可能性、公共交通を充実するために必要な施策）

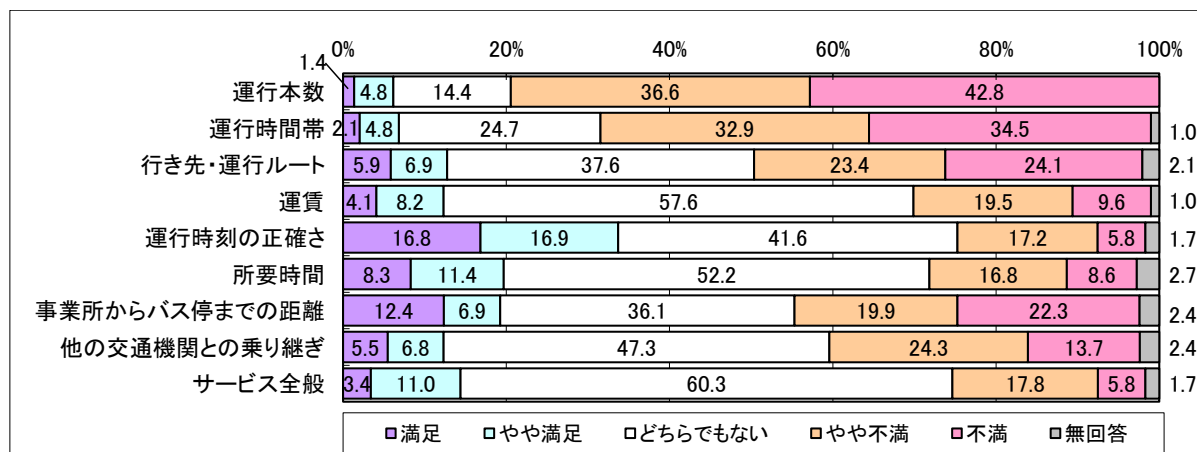
①通勤の状況

通勤の所要時間は近隣市町からの通勤者が多いため、「30分以内」が54.6%と最も多く、次いで「30分～1時間以内」が29.5%と、1時間以内の通勤者が約8割となっている。通勤時の交通手段は「自家用車を運転」が74.8%と最も多く、路線バス利用者は10.1%にとどまっている。



路線バスに対する満足度は、運行時刻の正確さで「満足」「やや満足」が33.7%と「やや不満」「不満」の23.0%を上回っているものの、各項目で不満度（やや不満、不満）が高く、特に運行本数で79.4%、運行時間帯で67.4%と多くなっている。

■路線バスに対する満足度（路線バスを利用したことのある方のみ）

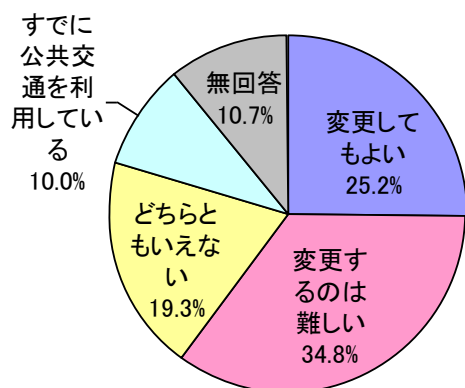


②公共交通の利用意向

公共交通が充実して通勤に利用することができるようになった場合、公共交通への変更の可能性は、「変更するのは難しい」が34.8%と最も多いものの、「変更してもよい」が25.2%と全体の4分の1を占めている。

公共交通を充実させるために必要な施策としては、「運行本数の増便」が67.4%と最も多く、次いで「運行時間帯の拡大」38.0%となっており、現行の路線バスに対する満足度が低いことがうかがえる。

■自動車等から公共交通への変更の可能性



■公共交通を充実させるために必要な施策

